

2大センサスの統計データ

今年、わが国で最も主要な統計調査である「国勢調査(平成22年)」及び「経済センサス(平成21年基礎調査)」の集計結果が公表されました。

この2大センサスの主要な統計データを表やグラフにまとめるとともに、視覚的に把握できるように、地図情報システム(GIS)を用いて市域図上に表示しました。



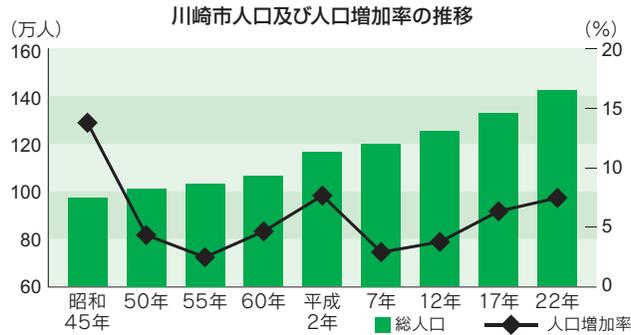
1 平成22年国勢調査基礎データ

平成22年国勢調査
人口等基本集計結果

●川崎市の人口の推移ー市の人口は引き続き増加ー

年次別	総人口
昭和45年	973,486
50年	1,014,951
55年	1,040,802
60年	1,088,624
平成 2年	1,173,603
7年	1,202,820
12年	1,249,905
17年	1,327,011
22年	1,425,512

(各月10月1日現在)



データチェック

平成22年国勢調査の結果を見ると、川崎市の総人口は142万5,512人となっており、前回の平成17年国勢調査結果と比べて9万8,501人(7.4%)増加しています。また、昭和45年以降の推移を見ると市の人口は増加を続けています。

●区別に見る人口ー人口・世帯数ともに中原区が最も多いー

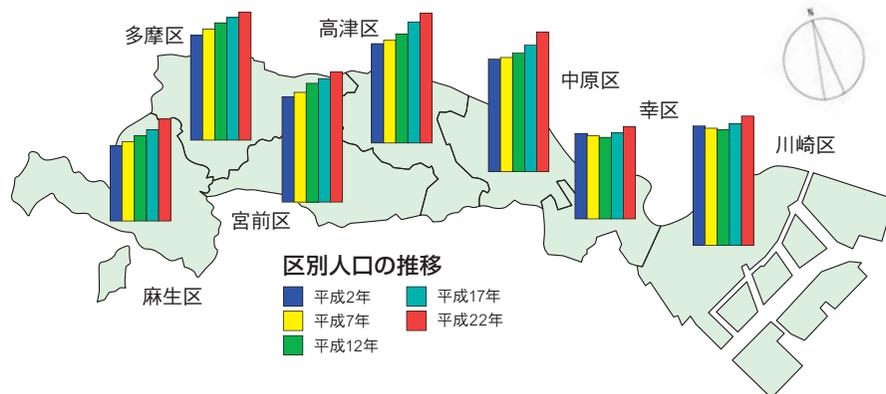
区	世帯数	人口		
		総数	男	女
全市	662,694	1,425,512	728,525	696,987
川崎区	105,586	217,328	115,800	101,528
幸区	70,680	154,212	78,882	75,330
中原区	117,190	233,925	121,046	112,879
高津区	101,753	217,360	109,905	107,455
宮前区	92,164	218,867	109,096	109,771
多摩区	103,595	213,894	110,844	103,050
麻生区	70,726	169,926	82,952	86,974

(平成22年10月1日現在)

データチェック

区別の人口を見ると、中原区が23万3,925人と最も多く、次いで宮前区21万8,867人、高津区21万7,360人、川崎区21万7,328人の順となっています。

また、前回の平成17年国勢調査以降の人口増加数を見ると中原区が2万3,382人と最も多く、次いで麻生区1万6,825人、高津区1万5,568人、川崎区1万3,524人、宮前区1万972人、幸区9,725人、多摩区8,505人の順となっており、全ての区で増加しています。



●人口増加率の大都市比較—川崎市は大都市で第1位—

順位	都市名	平成22年人口	平成17年人口	増減数	増加率 (%)
1	川崎市	1,425,512	1,327,011	98,501	7.4
2	東京都区部	8,945,695	8,489,653	456,042	5.4
3	福岡市	1,463,743	1,401,279	62,464	4.5
4	千葉市	961,749	924,319	37,430	4.0
5	さいたま市	1,222,434	1,176,314	46,120	3.9
6	横浜市	3,688,773	3,579,628	109,145	3.0
7	相模原市	717,544	701,620	15,924	2.3
8	名古屋市	2,263,894	2,215,062	48,832	2.2
9	仙台市	1,045,986	1,025,126	20,860	2.0
10	岡山市	709,584	696,172	13,412	1.9
11	札幌市	1,913,545	1,880,863	32,682	1.7
12	広島市	1,173,843	1,154,391	19,452	1.7
13	大阪市	2,665,314	2,628,811	36,503	1.4
14	堺市	841,966	830,966	11,000	1.3
15	神戸市	1,544,200	1,525,393	18,807	1.2
16	京都市	1,474,015	1,474,811	▲796	▲0.1
17	新潟市	811,901	813,847	▲1,946	▲0.2
18	浜松市	800,866	804,032	▲3,166	▲0.4
19	静岡市	716,197	723,323	▲7,126	▲1.0
20	北九州市	976,846	993,525	▲16,679	▲1.7

データチェック **〔人口増加率〕**
 前回の平成17年国勢調査以降、5年間の人口増加率を大都市で比較すると、川崎市は7.4%と最も高く、次いで東京都区部5.4%、福岡市4.5%、千葉市4.0%、さいたま市3.9%の順となっています。また、人口増減数では川崎市は9万8,501人の増加となっており、東京都区部、横浜市に次いで第3位となっています。

〔年齢(3区分)別人口〕
 年齢(3区分)別人口割合を見ると、川崎市は15歳未満(年少)人口割合が総人口の13.1%、15~64歳(生産年齢)人口割合が70.0%、65歳以上(老年)人口割合が16.8%となっており、生産年齢人口割合は大都市で最も高くなっています。また、平均年齢は41.5歳と大都市で最も低くなっています。

●年齢(3区分)別人口の大都市比較—平均年齢は大都市で最も低い—



2

町丁別に見る人口増加率

平成22年国勢調査結果速報

●人口増加率の高い町丁-前回調査以降、最も高いのは川崎区小田栄2丁目-

順位	区	町丁	平成22年人口	平成17年人口	増加数	増加率(%)
1	川崎区	小田栄2丁目	3,415	6	3,409	56816.7
2	中原区	新丸子東3丁目	4,511	242	4,269	1764.0
3	川崎区	大師河原1丁目	1,073	87	986	1133.3
4	幸区	堀川町	1,689	199	1,490	748.7
5	麻生区	万福寺及び万福寺2~6丁目	7,457	1,709	5,748	336.3
6	多摩区	東三田3丁目	2,926	802	2,124	264.8
7	宮前区	水沢2丁目	800	239	561	234.7
8	宮前区	宮崎4丁目	1,215	390	825	211.5
9	高津区	久地3丁目	4,010	1,294	2,716	209.9
10	川崎区	中瀬3丁目	4,716	1,633	3,083	188.8
11	幸区	神明町1丁目	2,232	898	1,334	148.6
12	中原区	今井上町	3,240	1,319	1,921	145.6
13	川崎区	下並木	2,990	1,457	1,533	105.2
14	宮前区	犬蔵2丁目	8,242	4,092	4,150	101.4
15	麻生区	黒川及びはるひ野1~5丁目	8,659	4,384	4,275	97.5
16	川崎区	富士見1丁目	1,937	989	948	95.9
17	幸区	中幸町3丁目	1,854	1,089	765	70.2
18	中原区	中丸子	13,338	8,058	5,280	65.5
19	高津区	宇奈根	1,401	848	553	65.2
20	麻生区	白鳥3丁目	1,272	770	502	65.2

※平成22年人口が100人以上の町丁を集計対象としています。

(各年10月1日現在)

※平成17年10月1日以降に住居表示が実施された区域については、前回調査との比較において町丁の区域が一致していない場合があります。

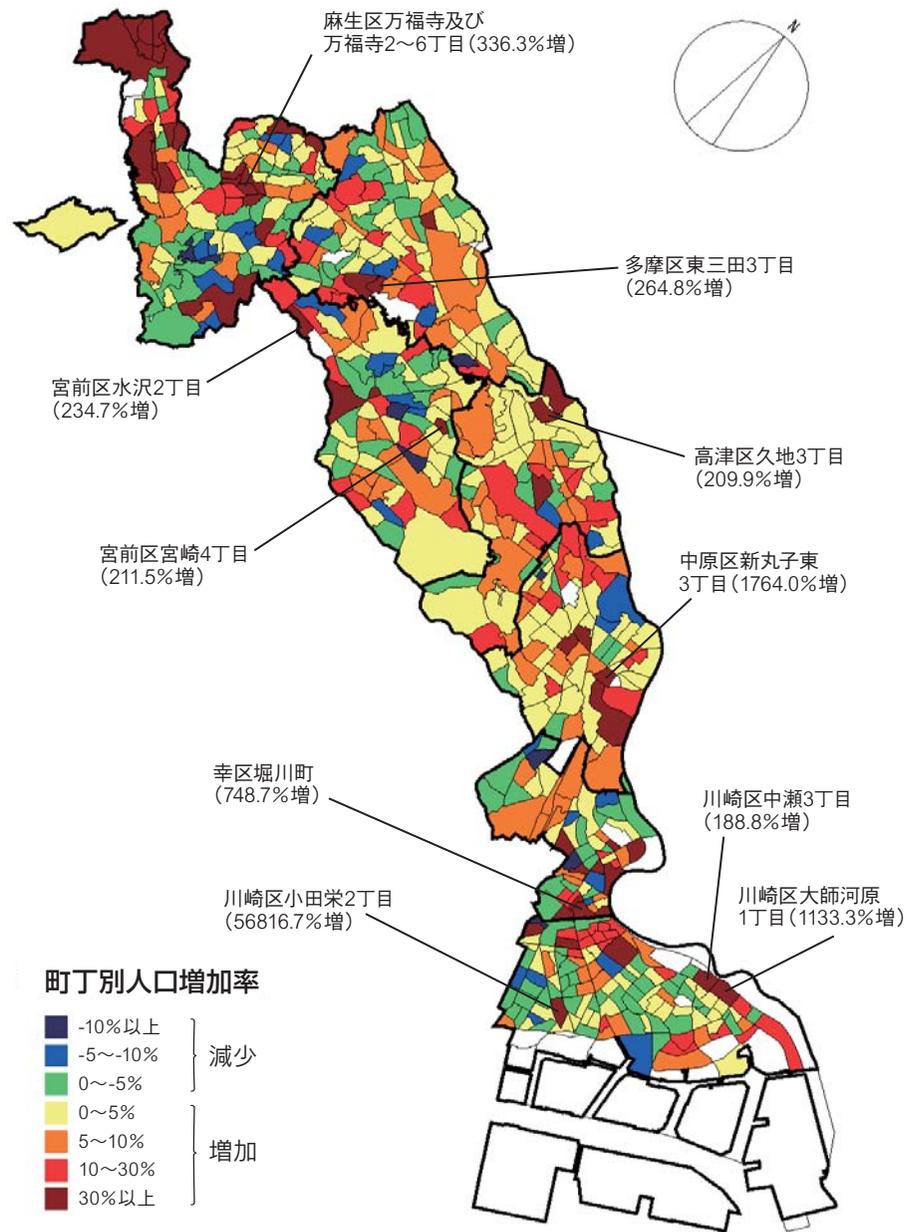
データ
チェック

前回の平成17年国勢調査以降、5年間における町丁別の人口増加率は、川崎区小田栄2丁目¹が56816.7%と最も高く、次いで中原区新丸子東3丁目²の1764.0%、川崎区大師河原1丁目³の1133.3%、幸区堀川町⁴の748.7%、麻生区万福寺及び万福寺2~6丁目区域⁵の336.3%の順となっています。

また、人口増加数では、麻生区万福寺及び万福寺2~6丁目区域⁵が5,748人と最も多く、次いで中原区中丸子¹⁸の5,280人、麻生区黒川及びはるひ野1~5丁目区域¹⁵の4,275人、中原区新丸子東3丁目²の4,269人、宮前区犬蔵2丁目¹⁴の4,150人の順となっています。これらの町丁では、再開発に伴う大規模なマンション建設や宅地造成が人口の大幅な増加に影響したと考えられます。

地図でみる町丁別人口の増減状況

※人口増加率の高い町丁の上位10位までは地図に位置を表示しています。



3 町丁別に見る人口密度

平成22年国勢調査結果速報

●人口密度の高い町丁-人口密度が最も高いのは幸区新塚越-

順位	区	町丁	世帯数	人口	面積 (Km ²)	人口密度 (人/Km ²)
1	幸区	新塚越	1,216	3,270	0.048	68,171
2	幸区	河原町	3,445	7,175	0.164	43,818
3	中原区	丸子通1丁目	2,083	3,605	0.085	42,491
4	幸区	中幸町3丁目	940	1,854	0.044	42,459
5	幸区	南幸町2丁目	2,085	3,375	0.083	40,730
6	川崎区	追分町	1,179	2,526	0.071	35,391
7	幸区	大宮町	1,806	3,458	0.098	35,165
8	中原区	新丸子東1丁目	1,204	1,844	0.053	34,755
9	幸区	神明町1丁目	878	2,232	0.066	33,814
10	中原区	丸子通2丁目	1,519	2,371	0.072	32,883
11	中原区	新丸子東3丁目	1,922	4,511	0.142	31,876
12	幸区	中幸町4丁目	1,186	1,809	0.057	31,722
13	幸区	塚越4丁目	2,115	5,221	0.166	31,457
14	川崎区	本町1丁目	1,155	1,565	0.050	31,108
15	川崎区	貝塚1丁目	1,270	2,066	0.068	30,389
16	川崎区	藤崎4丁目	1,687	4,023	0.133	30,280
17	中原区	今井西町	1,876	4,300	0.145	29,699
18	中原区	新丸子東2丁目	1,524	2,273	0.077	29,597
19	幸区	戸手本町2丁目	1,598	4,094	0.139	29,394
20	高津区	新作5丁目	1,539	3,297	0.112	29,380

(平成22年10月1日現在)

※平成17年10月1日以降に住居表示が実施された区域は、区域内の各町丁の人口・面積を合算し算出しています。

データチェック

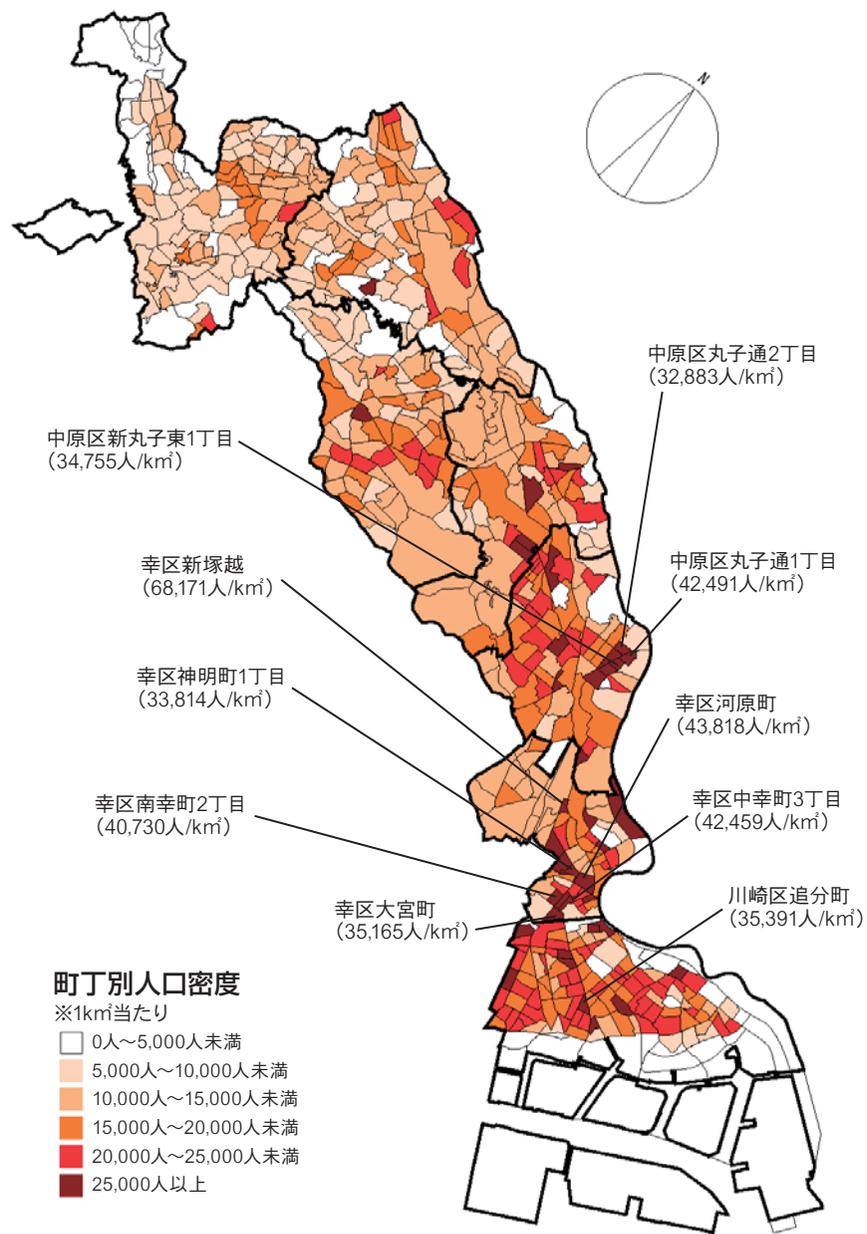
平成22年国勢調査結果速報から1km²当たりの人口密度を町丁別に見ると、幸区新塚越が6万8,171人と最も高く、次いで幸区河原町の4万3,818人、中原区丸子通1丁目の4万2,491人、幸区中幸町3丁目の4万2,459人、幸区南幸町2丁目の4万730人の順となっており、上位5町丁のうち、4町丁が幸区となっています。

1km²当たりの人口密度が2万人を超える町丁は、川崎区51町丁、幸区21町丁、中原区30町丁、高津区11町丁、宮前区8町丁、多摩区6町丁、麻生区2町丁となっており、市域南部で多く、市域北部では少なくなっています。

地図を見ても市域南部で人口密度の高い町丁が多くなっていることが分かります。

地図でみる町丁別人口密度

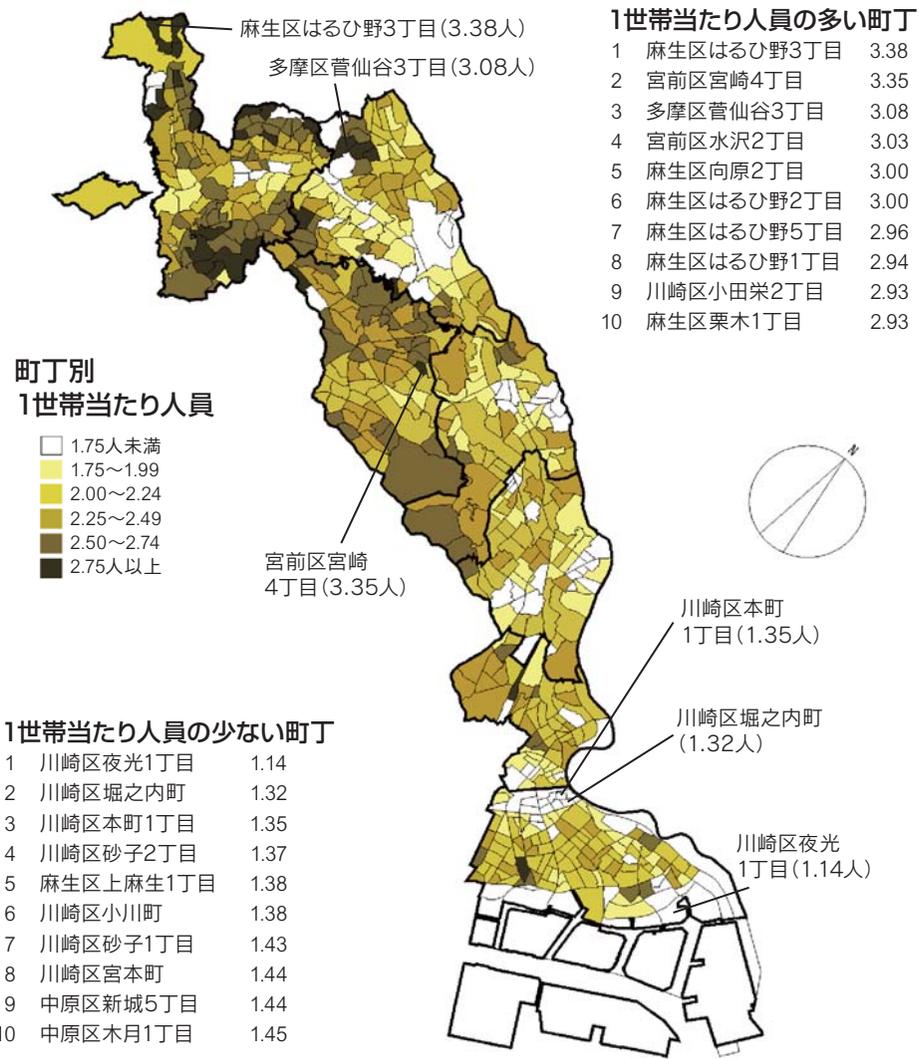
※人口密度の高い町丁の上位10位までは地図に位置を表示しています。



4 町丁別に見る1世帯当たり人員

平成22年国勢調査
結果速報

※1世帯当たり人員の多い町丁及び少ない町丁のそれぞれ上位3位までは地図に表示しています。
※世帯数が50世帯以上の町丁を集計対象としています。また、棟ごとにまとめて1世帯とされる社会施設等のうち1世帯30人以上の世帯を除いて集計しています。



データ チェック

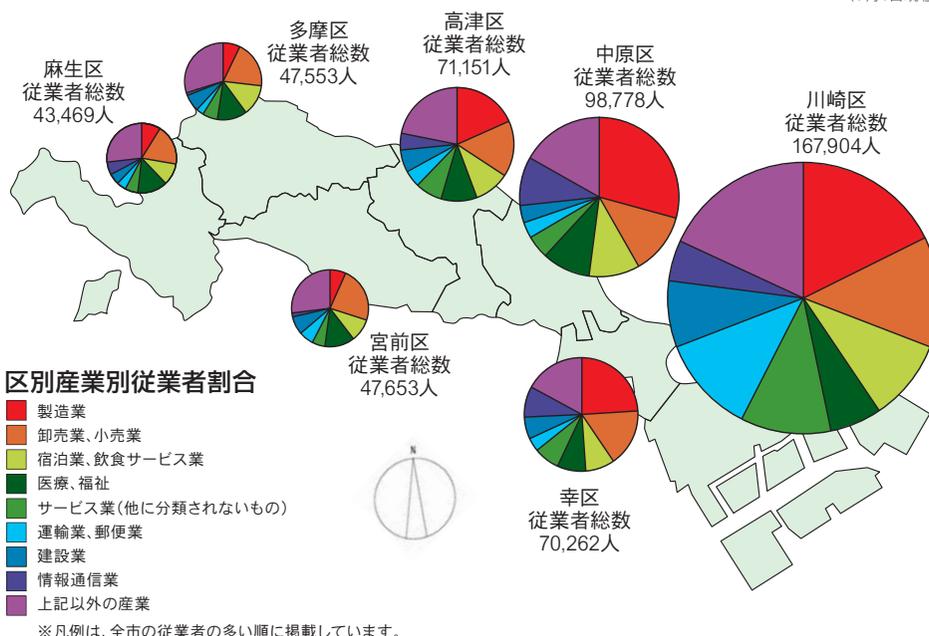
平成22年国勢調査結果速報から町丁別の1世帯当たり人員を見ると、麻生区はるひ野3丁目が3.38人で最も多く、次いで宮前区宮崎4丁目の3.35人、多摩区菅仙谷3丁目の3.08人の順となっています。また、1世帯当たり人員が最も少ないのは川崎区夜光1丁目の1.14人で、次いで川崎区堀之内町の1.32人、川崎区本町1丁目の1.35人の順となっており、上位10町丁のうち7町丁を川崎区が占めています。

5 区別に見る産業別従業者数 平成21年経済センサス-基礎調査

●全市では「製造業」従業者が最も多い

産業大分類別	全市	川崎区	幸区	中原区	高津区	宮前区	多摩区	麻生区
総数	546,770	167,904	70,262	98,778	71,151	47,653	47,553	43,469
製造業	98,494	29,118	17,096	29,166	12,983	3,052	3,304	3,775
卸売業、小売業	87,954	23,166	11,635	12,466	11,621	11,211	9,404	8,451
宿泊業、飲食サービス業	54,425	16,372	5,630	9,841	7,026	4,792	6,359	4,405
医療、福祉	49,319	10,180	5,374	9,416	7,044	5,734	5,688	5,883
サービス業(他に分類されないもの)	40,463	17,440	5,015	4,693	5,262	2,600	3,011	2,442
運輸業、郵便業	35,367	19,703	2,767	3,245	3,467	2,847	1,525	1,813
建設業	35,342	13,383	4,421	3,498	4,680	3,699	3,413	2,248
情報通信業	31,994	8,364	6,269	9,833	3,400	887	562	2,679
上記以外の産業	113,412	30,178	12,055	16,620	15,668	12,831	14,287	11,773

(7月1日現在)



データチェック

平成21年経済センサス-基礎調査から産業大分類別従業者数を見ると、全市では「製造業」従業者が最も多く、次いで「卸売業、小売業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「医療、福祉」の順となっています。

区別では川崎区、幸区、中原区、高津区で「製造業」従業者が最も多く、宮前区、多摩区、麻生区で「卸売業、小売業」従業者が最も多くなっています。

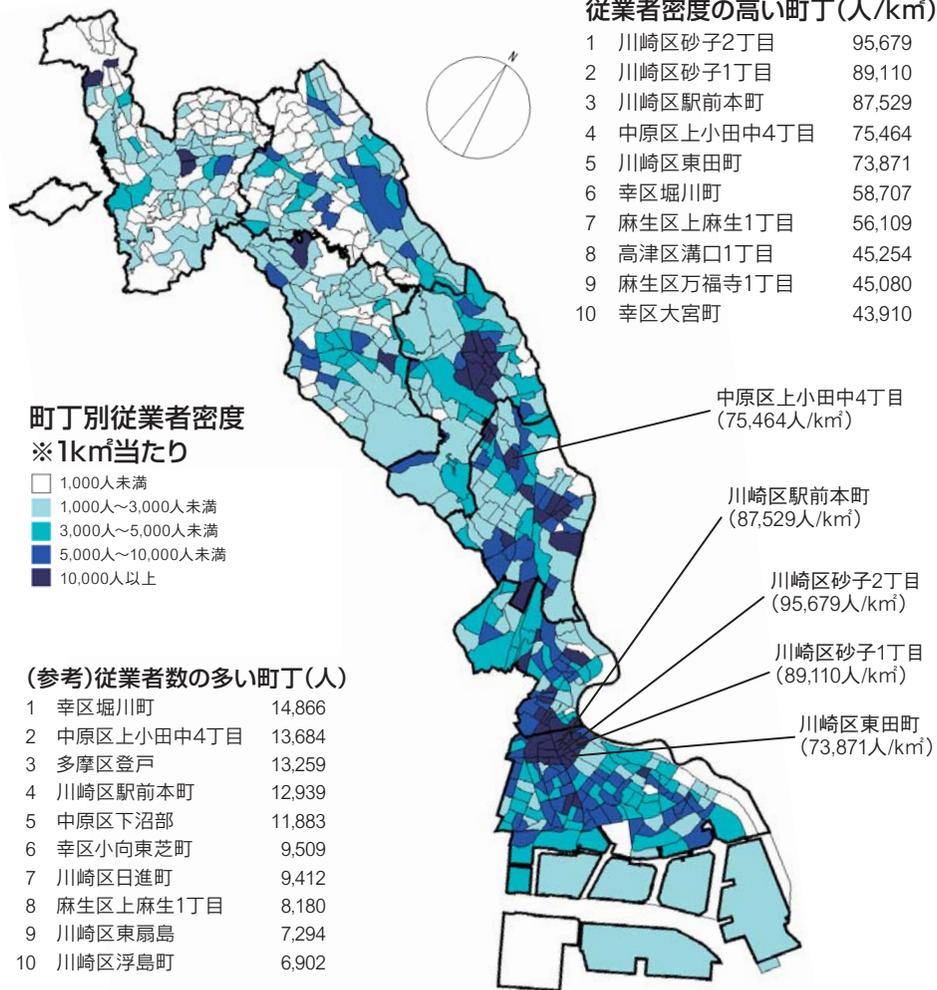
6

町丁別に見る従業者密度

平成21年経済センサス基礎調査

※従業者密度の多い町丁の上位5位までは地図に位置を表示しています。

※平成17年10月1日以降に住居表示が実施された区域は区域内の各町丁の面積・従業者数を合算し算出しています。



データチェック

平成21年経済センサス基礎調査から1km²当たりの従業者密度を町丁別に見ると、川崎区砂子2丁目が9万5,679人と最も高く、次いで川崎区砂子1丁目の8万9,110人、川崎区駅前本町の8万7,529人、中原区上小田中4丁目の7万5,464人、川崎区東田町の7万3,871人の順となっており、上位5町丁のうち4町丁が川崎区となっています。

なお、従業者数で見ると、幸区堀川町が1万4,866人と最も多く、次いで中原区上小田中4丁目の1万3,684人、多摩区登戸の1万3,259人、川崎区駅前本町の1万2,939人、中原区下沼部の1万1,883人の順となっており、この5町丁で従業者数が1万人を超えています。